

熱田神宮前商店街の再生計画

阿部研究室 A19AB043 河合桃果

背景と目的

無縁死をテーマにした著書に出会い、近年増加傾向にある高齢化に合わせた街づくりに興味を持った。またシャッター商店街の再生事例にも興味があり、寂れてしまった商店街を設計提案により変えたいと感じていた。シャッター化が進む商店街を舞台に孤立していく人々に手を差し伸べる街づくりができないかと考えた。高齢化は止められないが雇用や居場所を作り、社会参加の機会を増やすことはできる。高齢化の進む現代社会に商店街が持つ価値を提案する。今回の設計の目的は以下の二点である。

- ①高齢者の孤立を防ぐまちづくりを行うこと。
- ②寂れてしまったシャッター商店街を活性化させること。

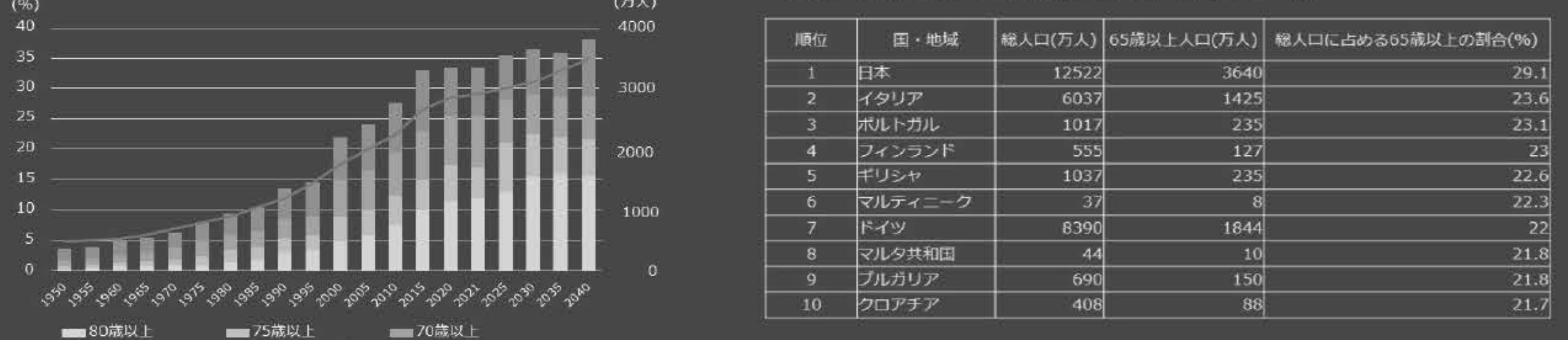
高齢化の現状

高齢化は今後さらに進むと予想されている【図1】。また、現在の日本の総人口に占める65歳以上の割合は世界1である【表1】。高齢化が進むことによる問題は以下の二点が挙げられる。

- ・社会保障制度と財政のバランスが崩れる事や経済活動が鈍化する事。
- ・働きたくても働けず、社会から切り離されることで生活の質が低下すること。

本設計では高齢者の雇用や居場所を作ることにより、経済活動の活性化を促し、孤立を防ぐまちづくりの提案を行う。

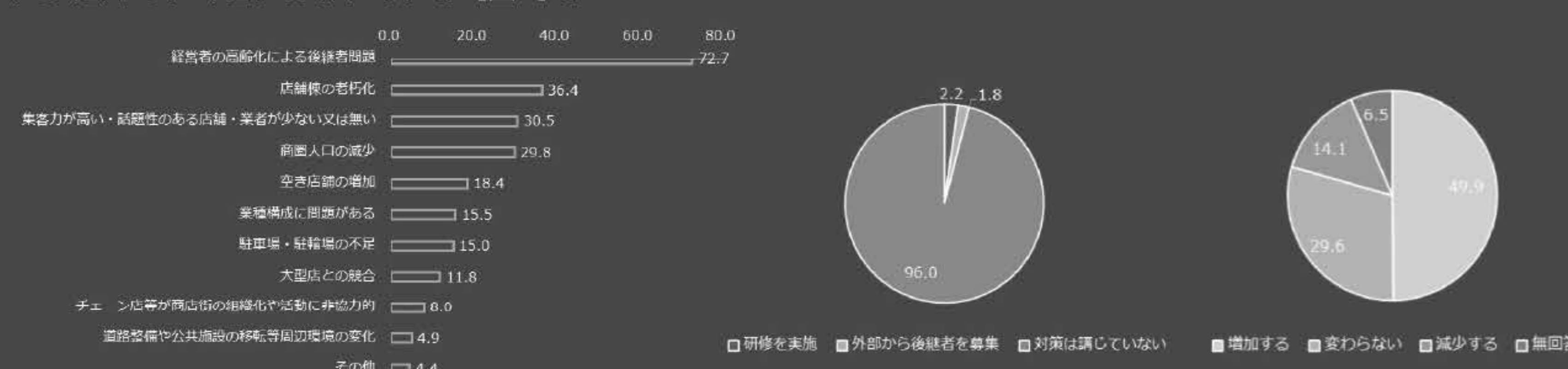
【表1】高齢者人口の割合(上位10か国)(2021年)



【図1】高齢者人口及び割合の推移(1950年~2040年) 統計庁ホームページ 統計トピックス 高齢者の人口より引用

シャッター商店街の現状

郊外の大型ショッピングモールによって中心市街地の人の流れが減少し、商店街は衰退していった。しかし、変化をニーズに上手く対応し活性化が成功している事例も存在する。消費者が求めるニーズを把握し、魅力的な店舗や施設を取り入れることができれば集客力を上げることができ、最大の課題は経営者の高齢化による後継者問題である【図2】。しかし対策を講じている商店街は少なく解決はできていない【図3】。この先、商店街のシャッター化は更に進んでいくと予想されている【図4】。



【図2】商店街の抱える問題(n=4140) 【図3】商店街における後継者対策(n=2924) 【図4】今後の空き店舗の見通し(n=3317) 令和3年度 商店街実態調査報告書より引用

事例調査

成功している商店街を参考にするために巣鴨商店街【写真1・2】と円頓寺商店街【写真3・4】を訪れ、現地調査を行った。どちらの商店街も新たな店舗を取り入れるのではなく、その地に合わせたターゲット層を定めて店舗の誘致を行っていたり、イベントによる話題性などで集客力を挙げていることが分かった【表2】。



【表2】現地調査結果

項目	巣鴨商店街(東京都)	円頓寺商店街(愛知県)
①ターゲット層	高齢者(女性)が多いが、観光客も多い	若者から中年まで幅広い
②集客要因	とげぬき地蔵が高齢者に人気	イベントによる話題性による集客
③主な店舗の種類	婦人服店や接骨院など高齢者が好きな店舗が多い	老舗になりそうな店舗の誘致に成功
	各々の店に魅力がある・同じような店が無い	建築家による大きな変化
	婦人服・お土産屋	飲食店・娯楽施設

他にも、高齢者を対象とした街づくりの事例を学ぶために調査を行った。

- ・シェア金沢(石川県) サービス付き高齢者住宅【写真5・6】
- ・アクティブ・エイジングに基づき、障がい者・健康者・高齢者・若者が分け隔てなく暮らせる街。天然温泉、レストラン、ライブラリなどのアミューズメント施設が併設されており、シェア金沢に住む人以外も気軽に利用できる仕組みになっている。高齢者施設の孤立したイメージを変えた街づくり事例である。
- ・豊田市百年草(愛知県) 観光地 【写真7・8】
- ・観光施設とサービスがあり、多くの高齢者が雇用されている。ホテル・フレンチレストラン・足助ハムのZIZI工場・ペーカリーバー(バー)はうす・日帰り入浴などの施設がある。高齢者が働き、訪れる観光地として成功している事例である。



敷地概要・調査

今回敷地として選んだ熱田神宮前商店街の特徴として以下が挙げられる。

- ・名古屋から近郊にあり、商店街の周辺には利用者も多いJR熱田駅と名鉄神宮前駅がある【図5】。
- ・熱田神宮は愛知県の中でも有名な神宮であり、参拝者は年間700万人を超え観光地として人気のある神社である。
- ・アクセス良く、ポテンシャルが高い敷地であるものの商店街の人通りは少ない。
- ・商店街は常に閑散としており、営業中の店舗も半分以上で魅力的な店舗は少ない。
- ・商店街の中には熱田図書館・区役所や専門学校など大きな施設も存在する。

現状の問題点として以下が挙げられる。

- ・広い車道に面しており回遊性がない。
- ・ターゲット層が不明で魅力的な店舗が少なく、活気がない。

調査を行う中で熱田神宮前商店街の問題点やニーズを把握する必要があると考え、分析を行った【表3】。



【表3】熱田神宮前商店街の分析結果

現状	問題解決	需要
既存 来客数が増えること	寂れて機能していない店がある	高齢者向けの店舗・施設
新設 集客力の高い店舗・施設	現在の新設では集客力に乏しい	リノベした店舗・施設
駅・各駅	店向きの異相	駅の利用者が多い人が来れない
熱田神宮	長時間滞在できない	広場や公園など
熱田区	図書館・役所以外の居場所	神宮以外の短時間・高齢化
名古屋	地元の人に来てくれる場所	ローカリスムが強い
熱田(東海)	観光地としての魅力	地方と都市部の距離
日本	商店街の可能性を広げる	人口減少・空き家問題・高齢化
		高齢者をターゲットにした事例

コンセプト

高齢者・地域住民・観光客と滞在目的や滞在時間が異なる人々が集まる「ごちゃまぜ」商店街【図6】。新しい店舗を誘致するにあたり、高齢者へ向けた雇用の場を創出する【図7】。

- ・居住者を増やし、集客力を上げることで既存の店にもベネフィットがよくなる【図7】。



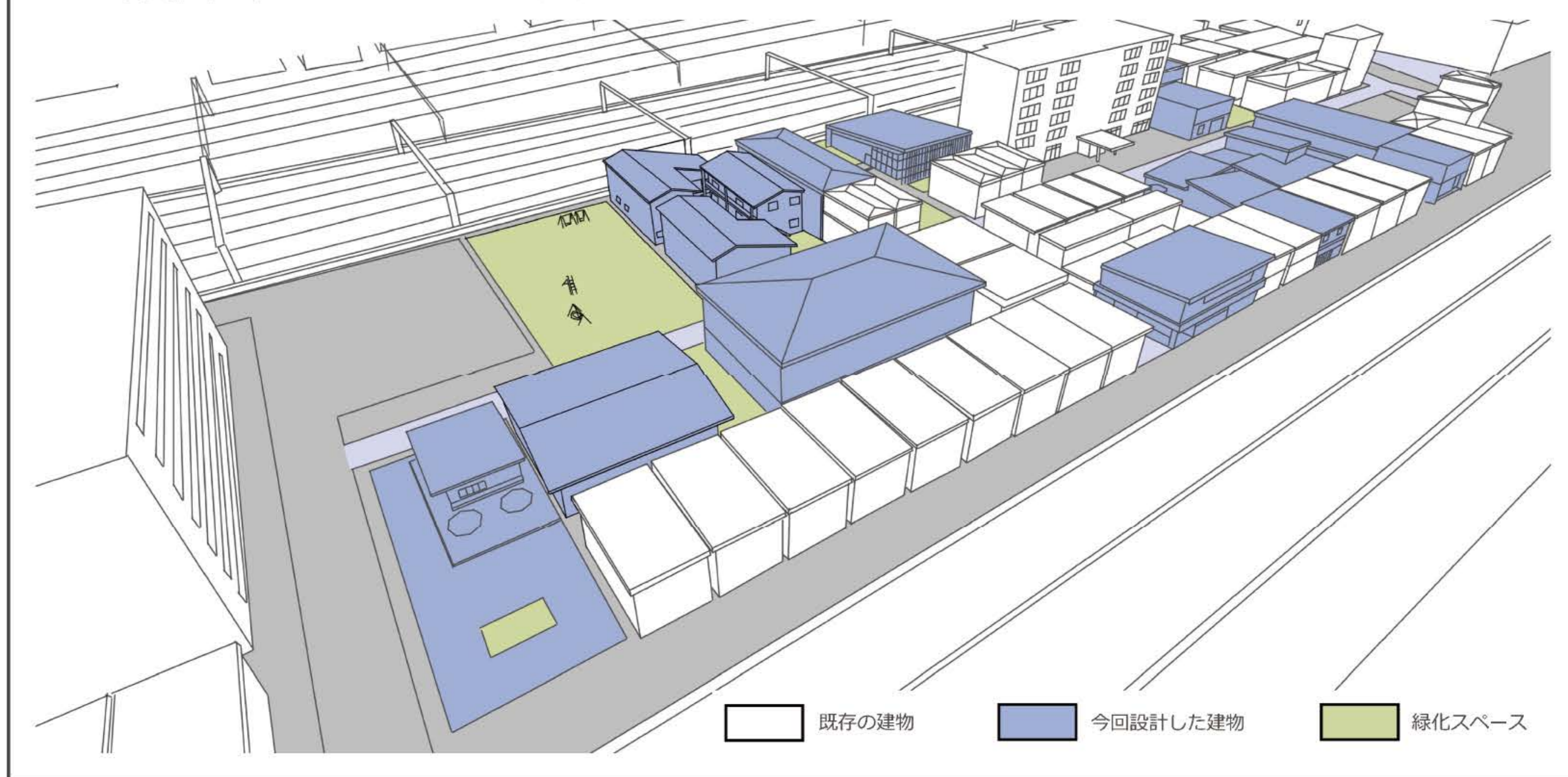
【図6】新たな要素とターゲット層 【図7】サービス付き高齢者住宅により生じる効果

まとめ

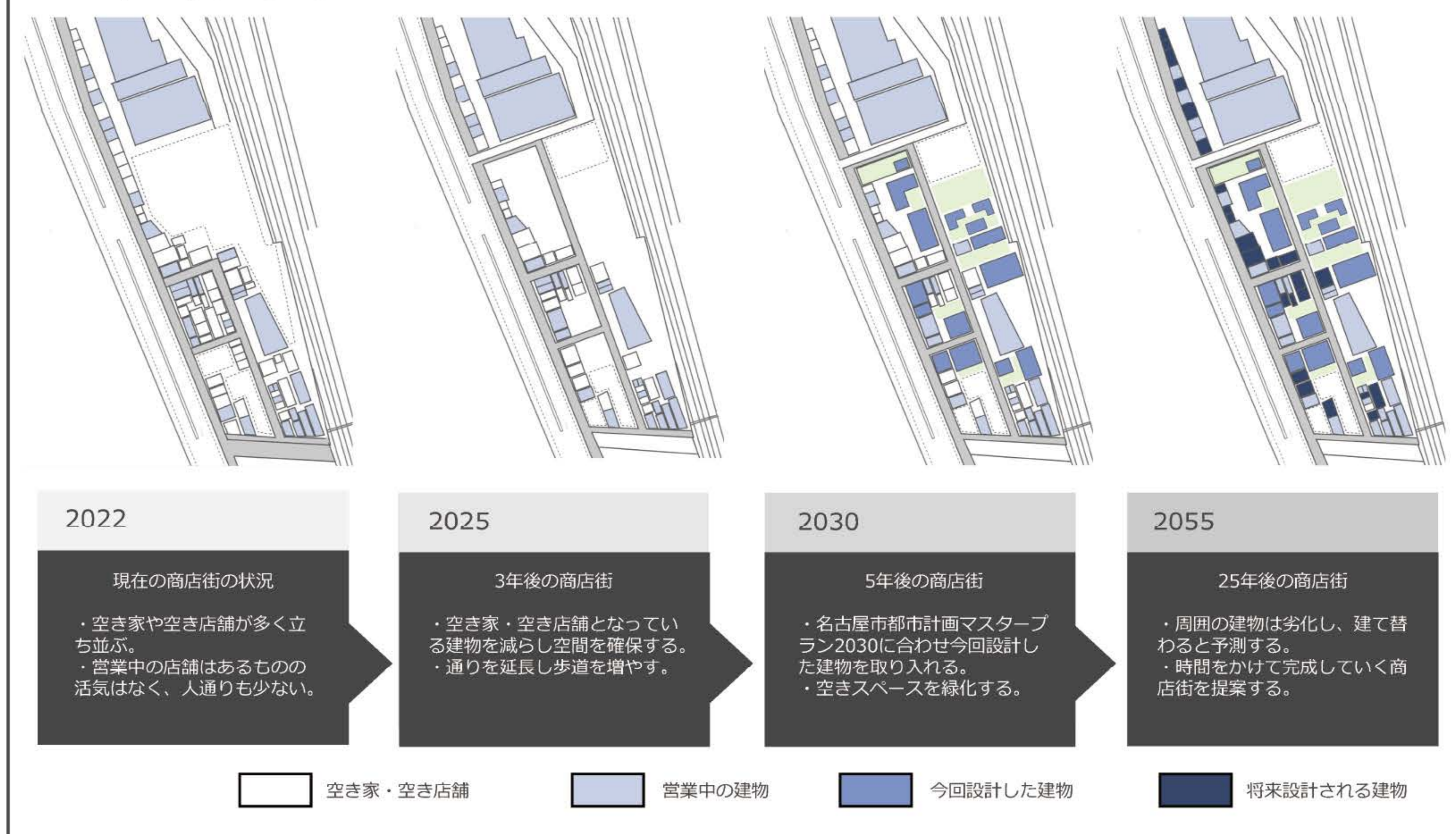
この先、高齢者に合わせたまちづくりの需要は高まると考えられる。本設計ではごちゃまぜ商店街として再生し、新たな店舗・施設の誘致や空きスペースの緑化を行い、コミュニケーションの場を作ることによって高齢者の孤立を防ぐ提案ができた。高齢化が改善された商店街、サービス付き高齢者住宅や共同住宅のような賃貸住宅の用途を変更し、ニーズに合った店舗を誘致する。ターゲット層を新たに設定し持続可能な住み続けられる商店街となるよう計画している。高齢者とシャッター商店街を組み合わせたように、他の問題も解決できないか検討を進めていきたい。



設計イメージパース



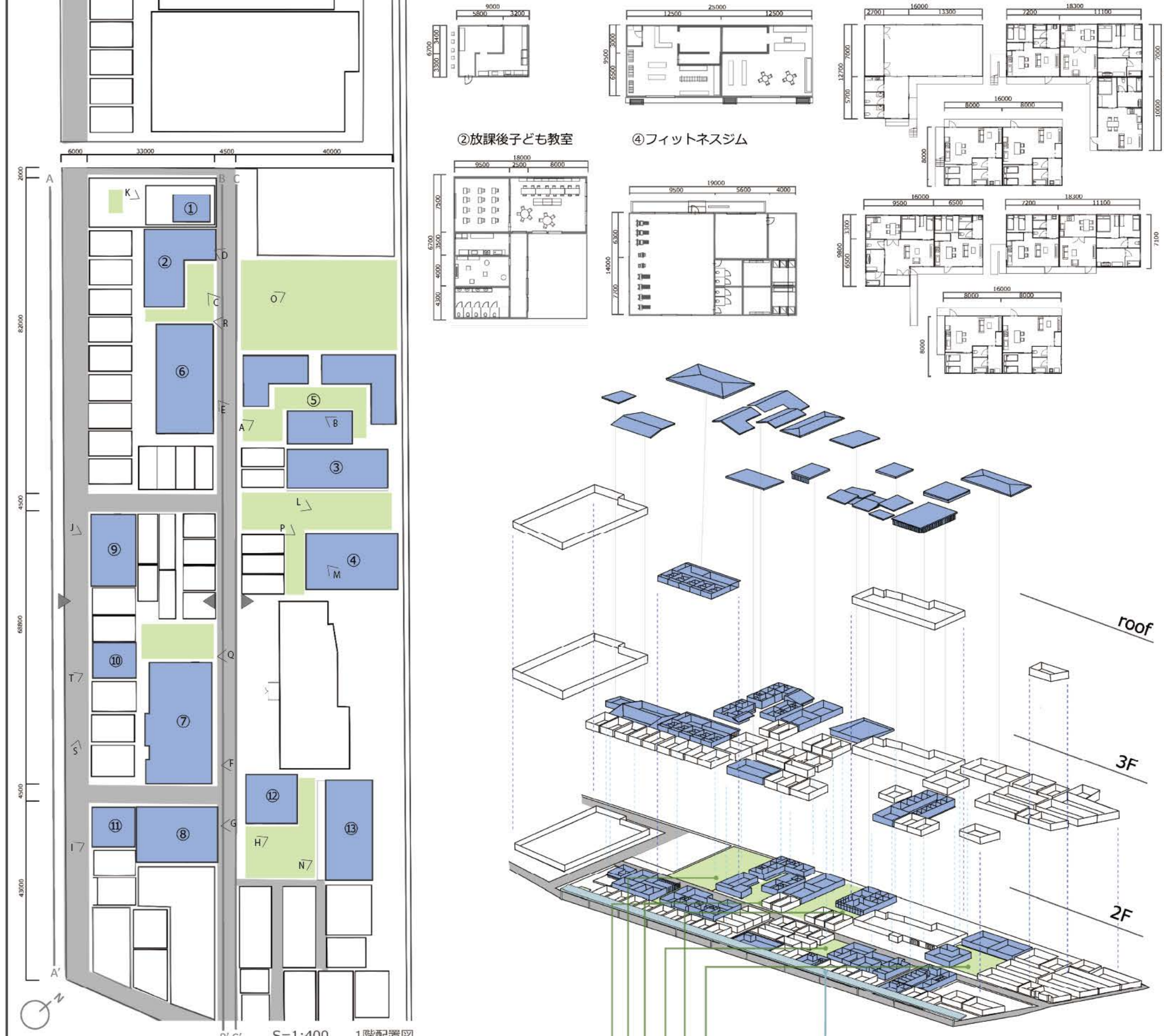
ダイアグラム



2022 現在の商店街の状況 2025 3年後の商店街 2030 5年後の商店街 2055 25年後の商店街

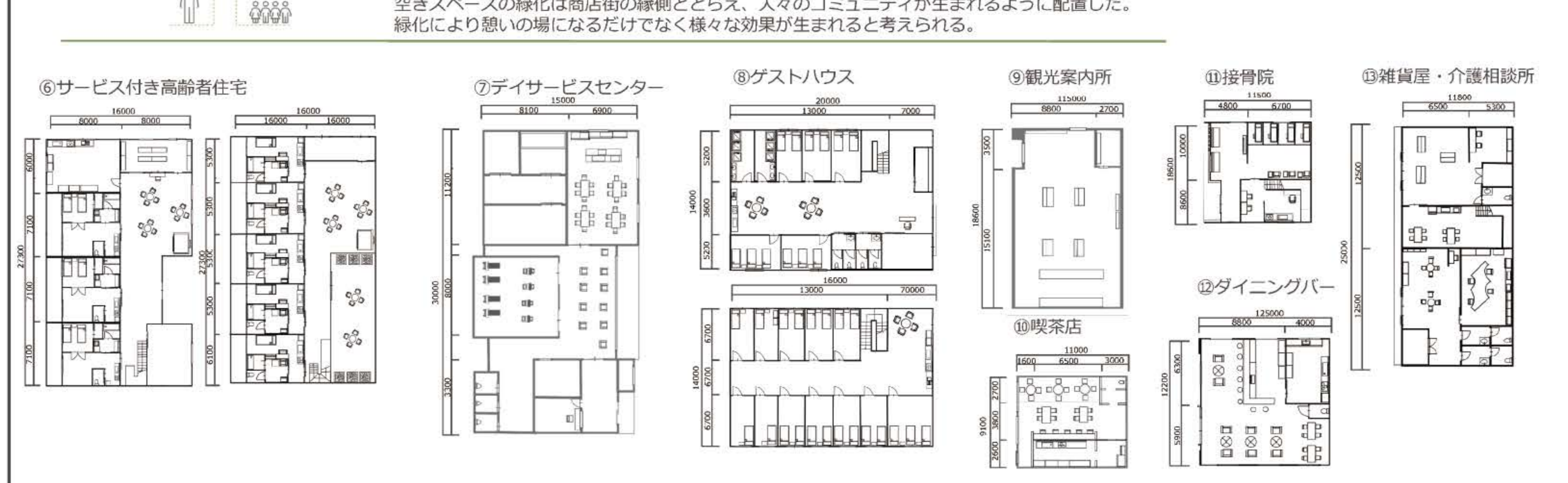
空き家・空き店舗 営業中の建物 今回設計した建物 将来設計される建物

配置図・平面図



緑化による憩いの場だけでなく様々な効果も生まれると考えられる。

- ・アクアード 天候をクリアにし、可動式レバーを取り付けた。天候や時間帯によって光の遮断を行うことができる。アクアードではプロジェクションマッピングやイルミネーションを行えるようにし、神宮への観光客を誘引できる仕組みにした。
- ・子どもたちの緑地 駄菓子屋を設け高齢者との交流の場
- ・きくらの広場 お花見やイベントスペース
- ・みんなの緑地 地域の人が集まる中庭
- ・高齢者の緑地 デイサービスに通う高齢者の屋外活動
- ・ジムの緑地 気軽に運動を楽しめる空間
- ・バーの緑地 屋外の立ち飲みスペース



立面図

